

と し ゃ か ん 宇 治

No. 9

1986年6月1日 発行

宇治市中央図書館

宇治市文化センター内

▽ 611

宇治市折居台1丁目1番地

電話 (20)1511



たかが漫画 されど漫画

宇治市教育委員会
教育長 岩本 昭造

公共図書館に漫画を置くことについて、全国の図書館界でも定説はなく、関係者の間で賛否両論があるようだ。まず、漫画賛成論は公共図書館が文化センター的役割をもっているので、漫画も一つの文化、当然入れるべきだし、漫画があれば人も入りやすく、利用者が増える。また、読者の要求があれば、置いてよいのではないかと、言うのがその内容である。一方、漫画氾濫時代で、何処へ行っても読めるものをわざわざ置く必要はあるまい。公共図書館は(子供に)よい本を提供し、創造力・判断力などを養うべきで、漫画があれば子供はそれだけに集中する。利用者もひきつけるために漫画を置くことはどうか、反対の意見である。異なる主張も漫画に対する理解の違いや公共図書館についての認識、わけても蔵書選定の考え方等の相違からと言えよう。ただ公共図書館に漫画を入れるかどうかを考える場合、子供に対する関心などを知っておくのは大切なことであり、その意味において、さき頃、京都市小学校生徒指導研究会が発表された「児童の生活と漫画について——漫画の興味・関心度とその影響——」の調査結果は、興味深いものがある。

調査結果の概要を新聞紙上(四月二十日付京都新聞朝刊)を通して承知する限りにおいて、男子では ①キン肉マン ②北斗の拳 ③ドラえもん ④キャプテン翼 ⑤タッチ ⑥アラレちゃん ⑦あさりちゃん ⑧ときめきトゥナイト ⑨タッチ ⑩アラレちゃん ⑪あさりちゃん ⑫好きな漫画ベスト5で、漫画の所有数は十冊ほどがトップ、次いで四十冊以上。六年生では逆転して四十冊以上が三割になっている。高学年ほどよく読むようだ。漫画を読む理由は、面白いからが圧倒的で、次いで退屈だから。漫画の読み方は、絵も字も読むが八割以上で、絵も字もさっと見るだけのわずかで、絵も字も読む方が読む冊数が多いなど、最近の子供の所持は、漫画本においても例外でないことを含めて、子供の生活と漫画との係わりの実態が明らかにされていた。

いずれにしても、漫画とは笑い、滑稽風刺などを内容とした絵画の総称で、東西ともその起原は古い。日本の漫画の古いものでは、法隆寺金堂天井板の戯画・平等院鳳凰堂扉押縁下の落書などが残っているとされており、戦後においては、昭和二十一年、新聞漫画に登場した「サザエさん」も生きている今日である。漫画を「たかが漫画、されど漫画」と考え、『読書のすすめ』について、中央図書館でいろいろ工夫してみてもはどうだろうかと思っている。

図書館の障害者サービス

来館のとき、お気づきになりませんか。文化センターの入口から「ピンポン」とチャイムの音が聞こえてきますね。

図書館の中には、自動ドアの前からカウンター・点字朗読室まで色の違うカーペットが帯のように敷かれています。このほかにも、廊下の点字ブロック、点字案内板、身障者用トイレ、エレベーターなどが設けられています。

これらはみんな、体の不自由な方が図書館をはじめ、いろいろな施設を利用しやすいように配慮された設備です。

さらに、図書館はみなさんに資料や情報を提供し、学習に役立てていただくというところですから障害をもつ人のご利用にあたっては、施設の改善だけでなく確実に資料を提供できるよう工夫が必要となります。たとえば、目の不自由な人はそのままのかたちでは、文字を読むことがむずかしいために、資料の内容を別の方法で伝えるということができなければなりません。点字で書かれた点字図書もこの方法の一つです。

このように図書館が行う障害者

サービスとは、健常者へのサービスと同じ内容のことを障害の状態に合わせて、かたちを変えて提供するものであると言えます。

障害者サービスが、公共図書館で実際に行われるようになってから歴史は浅いのですが、施設の改善や視覚障害者へのサービスを中心として、全国的に大きく広がっています。

当館においてもこの六月からまず視覚障害者へのサービスが、宇治市社会福祉協議会、宇治リーディングボランティア、及び宇治市盲人協会の協力のもとでスタートします。

この実施に向けて、宇治市図書館協議会の中でも、十分に内容を検討していただきました。実施するサービスは次のとおりです。

一、対面朗読

本や新聞など、視覚障害者が希望される図書館資料を、向い



に座った朗読者が、ご本人の目の代りとなって読んでお聞かせするものです。これは、晴眼者にとつての閲覧と同じ内容であると言えます。

二、点字図書の貸出

点字図書は、墨字本（ふつうの文字で書かれた本）を点字に訳して書かれた図書で、指で触れることによって読みとります。

希望の図書の貸出を行います。郵送によって貸出、返却ができるようになります。

三、テープ図書の貸出

テープ図書は、墨字本をテープに録音したもので、耳からの読書ができるものです。作業をしながら、また必要な部分を繰り返し聞くことができるので便利です。さらに、途中で視覚障害者になったため、点字に不慣れた人にも喜ばれています。

当館の場合は、ライトハウスなど

他の館で作成されたものを一旦借り受け利用者に貸出していますが、希望のものがない場合は著作権の許可を受けてから宇治リーディングボランティアの協力により作成することになります。貸出、返却は郵送でできるようにしています。

四、大活字本

弱視の人が読み易いように、大きな活字で書かれている図書ですが、お年よりや子供にもよく利用されています。

五、「声の図書館だより」の作成と配布

図書館を気軽にたくさん利用してもらえよう、案内案内や図書の情報をテープに録音し順に聞いてもらうものです。

当館では、まず、視覚障害者へのサービスを重点にして、事業をすすめていきたいと考えています。

当館は今、視覚障害者サービスの着実な一歩をふみ出しました。六月からは、朗読を担当していただくリーディングボランティアの養成講座をひらきます。一つ一つのサービスが、利用者に喜んでいただけるものとなるよう取り組みますので、みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いします。

【質問】
友好都市となったヌワラエリヤ市（スリランカ）は、どのような街ですか。

【回答】
スリランカの首都コロンボの東一六五kmにある高原のまちです。市の人口は、約二十万人で、このうち九〇％は農業に従事しています。



広大な土地と気候に恵まれていることから、農作物は豊富でキャベツ、豆、人参、ジャガイモ、赤大根等様々な種類の野菜が栽培されています。特に有名なのは、スリランカ第一の良質紅茶の産地としてであり、人口の約五十五％は紅茶の生産に従事しています。丘陵地帯一面に広がる紅茶畑の眺望はまさに壮観です。

スリランカ全体で約三十万ヘクタールの紅茶畑があります。同市には一万八千ヘクタールがあり、一週間に一回手摘みができ、一ヘ

クタール当りの生産量は、製品で約千kgです。日本の紅茶会社は、ヌワラエリヤ市産の紅茶を一番多く輸入しています。主な輸出先は日本、イギリス、ドイツ、イラン、エジプト等です。

また、まちの周囲には、ジャック綿の木、パンの木、ヤシの木、ゴムの木、ドリアン、バナナ、パイナップル、パイナップル、マンゴ等の熱帯植物が繁茂しており、果実は豊富で美味です。

宗教は上座仏教で、寺院が多く存在します。

イギリス人、サムエル・ベイカー卿が開拓し、植民地時代には夏の首都となっていた町だけにヨーロッパ・ムードに満ちた高原避暑地です。

市街地はジョージ湖の周辺に形成され、町全体が公園のような景観をなしています。湖のそばには、草競馬の行われる馬場があります。

また、溪流のマス釣りなども、この地域の住民

ご存知ですか？

の楽しみのひとつであり、近くには大小の港が年中豊かな水を送っています。市の一角にスリランカの最高峰、ピドゥルタラーガラ山（二、五二四m）があり、手ごろな山歩きの場となっています。市内には美しいゴルフ場もあり、観光客にも利用の道が開かれています。少し郊外に出ると、ハツガラ動物園があり、熱帯の高山植物を鑑賞するのに絶好の施設であります。

【質問】

読みたい本が書架に見あたらないのですが……。

【回答】

書架に本がない時は、その本が貸出し中であるか、図書館が所蔵していないかの大きく二つの場合が考えられます。このような時は、読みたい本を予約・リクエスト用紙に記入して、職員に渡して下さい。書名・著者・出版社等、はっきりわからない時でも手がかりがわかれば調べることが出来ます。貸出し中の本は返却されたい、所蔵していない本は、検討の上、購入あるいは他の図書館から借用して貸出します。本館では、連絡後二週間以内に借りて下さい。



- ★ 「UPECセミナー報告 86-13 スリランカの概要」（宇治政経文化教育セミナー発行）を参考にしました。
- ★ 中央図書館では、もっとスリランカについて知りたいという声にこたえて、6月1日～29日まで図書を中心とした「アーユボーワン Srilanka 展」を開催しています。

そよかせ号では、巡回日に持参します。また、やむ得ず入手できない場合も連絡します。

このように、求められた本は必ず一定期間中に提供することを予約・リクエストサービスといい、図書館サービスの要の一つです。公共図書館の最も重要な役割は市民の求める生活・余暇・娯楽・学習等毎日の暮らしに役立つ図書を提供することであり、図書館に行けば読みたい本があり、知りたい情報を得られ、貸出しによって気軽に自由に本に親しめる、そんな図書館を私達はめざしています。

郷土のはなし

大幣神事を

御覧なされや

若原英 弌

六月の宇治は、祭り月である。年に一度の茶の季節が、ようやく終りを告げる六月五日は、暗夜の奇祭として名高い『あがた祭り』で賑わう。

雑踏と興奮のその余韻が、まだ醒めやらぬ八日には、王朝の昔から「宇治離宮祭」の名で世に知られた宇治神社還幸祭が行われる。

近年は、王朝―鎌倉のころの盛況には程遠い祭りだが、宇治橋を渡る神輿が新緑の川面に映える風情に、かつてのみやびな趣きをわずかに偲ぶことができる。

しかし、都の貴紳の心をとらえて、見物の足を宇治に運こぼせた当時のはなやかな離宮祭のおもかげは、むしろその日の午前中に静かに執行される「大幣神事」にとどめられていく。このことはあまり知られていないようだ。

現在の大幣神事は、宇治離宮祭とは別個のものとして、懸神社と大幣座と呼ぶ宇治の人々によって主催されている。神事の目的とするところは、宇治の町の防疫・除厄であり、その名が示すように巨大な「幣」が祭典の中心になっ

いる。

この神事には、いくつかの興味深い点がある。その第一は『延喜式』巻八にみえる道饗祭（みちあえさい）の形態を伝えているところである。王朝のころ、宇治に多くの別業を設けた藤原氏によって、平安京で行われていた厄除けの神事が導入されたという伝承に、間違いはないであろう。「一ツ物」と呼ぶ騎馬神人が馬を走らせ、あるいは幣を追う神事も、魔や厄を除け悪疫を追いはらうしぐさにはかならない。宇治の町すじを巡行した大幣を宇治川に投じて、あつてなく神事が終るのも、災いのすべを水に流そうという素朴な祈願のあらわれである。

それに加えて、巡行の際には、風流傘や翳（えい）、杓鉾と称する柄杓とザルを竹の先につけた奇妙な祭具や黒塗の古風な高下駄などを持ち歩く。十七世紀の末に著された『兎道旧記浜千鳥』には、このほかに鶴と亀の頭冠をいたたく舞人が供奉していたと記されており、また鬼面をつけた人物が随行していたことも知られている。いづれにしても、それらはこの神事が中世以前から伝えられたものであることを窺わせている。くわしくは『宇治市史』一・三・六巻の概当部分を参照していただければよいのであるが、とにかく、六月八日の午前十時、県神社の前で一見されることをおすすめする。

本をかりるには

— 利用案内 —

中央図書館

市内にお住まいの方、市内に通勤・通学されている方ならどなたでもかりられます。

- ・貸出は、1人3冊、3週間です。
- ・開館時間は、9時～17時です。
- ・休館日は、毎週月曜日・毎月末日・国民の祝日・年末年始

移動図書館

月に市内24カ所を巡回しています。

- ・貸出は、1世帯に20冊までです。
- ・次回巡回日に返却して下さい。
- ・日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかせ号」巡回日程をご覧ください。

編集後記

「おはなしありがとうございます……」物語の主人公になったような面持ちで図書館から帰る子供たち。昨年六月から始めた毎月一回のおはなし会も、やがて一年。い

つまでも子供の心に残るもの、これからも上演していきたいと思っています。

◆ スワラエリヤ市（スリランカ）と宇治市の友好都市締結の調印式が四月十二日、スリランカの現地で行われました。これから先、両市の市民の間に友好と理解が深まっていくってほしいもの

です。図書館でもスリランカの本をできるだけそろえて、皆さんに利用していただきたいと考えています。

◆ 六十年統計によると、宇治市中央図書館は本館二四、四四七人が登録され、合計年間四二六、六八三冊の本を貸出しました。市民一人あたりにすると、年間二・六冊（一世帯あたり八・二冊）貸出したことになりました。今年度は新たに、視覚障害者の方に対するサービスも開始します。

◆ 利用者の皆さんに、より信頼される図書館をめざして頑張ります。身近な書齋として一層のご利用をお待ちします。